

## 2 . まちづくりに関する延伸線整備の 意義・必要性～延伸線地域将来像

## 2. まちづくりに関する延伸線整備の意義

### (1) 経緯

#### 1) 運輸政策審議会第18号答申を支えたまちづくり構想(平成12年1月)

・東京都心から30km圏内の旧浦和市の東部と旧岩槻市の南部は鉄道の空白地帯であり、新たな宅地の広大な供給地として残されていた。

・国際アメニティタウン構想により良好な都市環境を備えた魅力あるまちづくりを推進するための調査対象地域3,350haの内先導整備地区として美園地区に約3.2万人、約320haの整備を推進する。

・まちづくりにより、鉄道利用者を生み出す。

#### 2) 埼玉高速鉄道の延伸及び経営に関する提言(平成17年2月)

##### 【沿線のまちづくりの提案概要】

・鉄道は、都市の装置の一つであり、まちづくりの推進は最大の鉄道利用策である。

・延伸事業は沿線地域の開発計画によるまちづくりが前提となっている。

・答申当時考えられていた国際アメニティタウン構想など、延伸地域における開発構想の早期具体化が望まれる。一方、最近の社会経済状況の中で従来型の宅地供給を中心としたまちづくりを進めるには極めて厳しい情勢である。

・旅客を沿線から呼び込むという発想から地域資源を生かし、特色あるまちづくりを目指し、集客や交流の活性化を図る。

・まちづくりの策が講じられないまま鉄道が整備されると、人口流入よりも人口流出が進み、都市の衰退を招く恐れがある。

・埼玉スタジアムはサッカーのみにこだわらず、県民に親しまれる「スタジアム公園」を目指し、1年中県民が行ってみたいと思うような活用方針の検討を要望している。

## (2) 延伸地域の将来像と課題

### 1) 浦和美園駅周辺まちづくり

#### 【経緯・現状】

- ・平成13年3月に美園地区の土地区画整理事業の事業認可と浦和美園駅が開業される。
- ・平成16年2月にさいたま市総合振興計画で「美園地区」を副都心と位置づけられる。
- ・平成18年4月に浦和美園駅東口のまち開きと合わせ大型商業施設の開業がされる。それ以降、マンション(3棟、約650戸)販売によるところの鉄道利用者の増加が見られる。
- ・平成23年8月現在、東口駅前広場付近は店舗等併用共同住宅(5階程度)が3棟立地している。その他の画地は駐輪場や駐車場となっている。
- ・美園3地区の平成22年度末までの事業費ベースの進捗率平均は約71%となっている。しかし、使用収益開始率は約14%である。
- ・東口の駅前付近は自動車駐車場や駐輪場の占める割合が多く、自転車や自動車による通勤者等にたいする利便性向上に役立っており、鉄道利用貢献の一助になっている。

#### 【課題・将来像】

- ・駅を中心とし地域交流拠点の形成を目指し、大型商業施設等の立地はしているが、急速な土地利用の促進がなされていない現状もある。
- ・「スポーツ・交流・自然をテーマに新しいまちの創造」の将来イメージに向け推進している。

### 2) 埼玉スタジアム2002

#### 【現状】

- ・埼玉スタジアムの年間観客数は平成13年以降、平成19年をピークに徐々に減少傾向となっている。
- ・サッカー以外のイベントとして、フリーマーケット、スタジアム結婚式、サッカースクール、B級グルメなどスタジアム公園を活用して開催をしている。

#### 【課題・将来像】

- ・日本代表戦等の誘致や観客減少などが課題となっている。
- ・まちづくりの中でスタジアム周辺は、スポーツ・文化を中心に国際的な交流活動がなされる拠点として位置づけがされている。
- ・埼玉スタジアム2002公園における指定管理者の基本的方針に基づき利用促進を図っている。

### 3) 中間駅周辺まちづくり

#### 【検討経緯】

- ・まちづくり計画の新たな視点に立ち、開発需要調査から定着人口約4000人を推計し、開発規模を決定した。さらに、まちの将来像を明確にした「コンセプト型の開発」を目指す。
- ・定着人口に加え交流人口の創出を図るため産業集積拠点の検討等も加えている。そのひとつとして企業等アンケートを実施し、立地や移転等を検討できるとした企業等の訪問ヒヤリングを現在、実施中であり、一定の手ごたえがある。
- ・まちづくりに関して定着人口や産業立地などの調査を基に中間とりまとめ案とした。

#### 【課題・将来像】

- ・人口減少局面を迎える中での新しいまちづくりへのリスクがある。
- ・浦和美園で計画人口約3万人規模の開発推進中であり、その以北での新規定住の可能性のリスクがある。
- ・少子高齢・人口減少社会における税収減・義務費増大の中での長期的な整備費の確保が課題である。
- ・新しいまちの将来像であるコンセプト目指してまちづくりを進める。
- ・高齢者等の交通利便性の確保や周辺地域も合わせて生活利便性の向上を図られる。

### 4) 岩槻駅周辺まちづくり

#### 【現状】

- ・既成市街地であり、城下町としての歴史・文化資源がある、その中でも、人

形は岩槻の代表的地場産業であり、「人形のまち岩槻」として全国的に有名である。しかし、少子化や後継者の問題もあり、事業所の減少や観光客は年間125万人の水準で推移している。

・平成22年12月に岩槻まちづくり区民検討委員会を立ち上げ、岩槻駅周辺地区の今後のまちづくりのあり方の検討を開始し、下記の予定で進めている。

平成23年度中に（仮称）岩槻まちづくりマスタープラン素案の作成

平成24年度以降、実施方策の検討

現在、区民検討委員会を4回開催している。

・東武鉄道の岩槻駅舎の改修工事：平成24年度から平成26年度予定で完成後は自由通路により東西の地域が結ばれる。

#### 【将来像】

・総合振興計画や都市マスタープランで岩槻区の将来像「自然と歴史・文化を楽しむまち」定めの推進している。

・延伸線のスケールメリットと鉄道結節点の効果を活かし、城下町としての歴史、人形、の「ブランド力」などの地域資源を最大限利用し、まちの賑わいを創出し都市型観光などの交流人口の増進を図れる。